

— 平成30年度第1回都市計画審議会 —

西脇市都市計画マスタープラン



H30.05.29 西脇市 都市計画課

1 概要



NIHONNO
HESONOÓ

(1) 都市計画マスタープランとは

都市計画区域マスタープラン

- 通称：都市マス
- 都市計画法第18条の2第1項の規定に基づく
「市町村の都市計画に関する基本的な方針」
- 西脇市都市計画マスタープランは、
西脇市総合計画（基本構想）を基本に、
より具体的な都市づくりの方針として定めるもの。

都市計画法第18条の2第1項（昭和43年6月15日法律第100号）

（市町村の都市計画に関する基本的な方針）

第十八条の二

- 1 市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに市街化区域及び市街化調整区域の整備、開発又は保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

(2) 西脇市都市計画マスタープランの役割

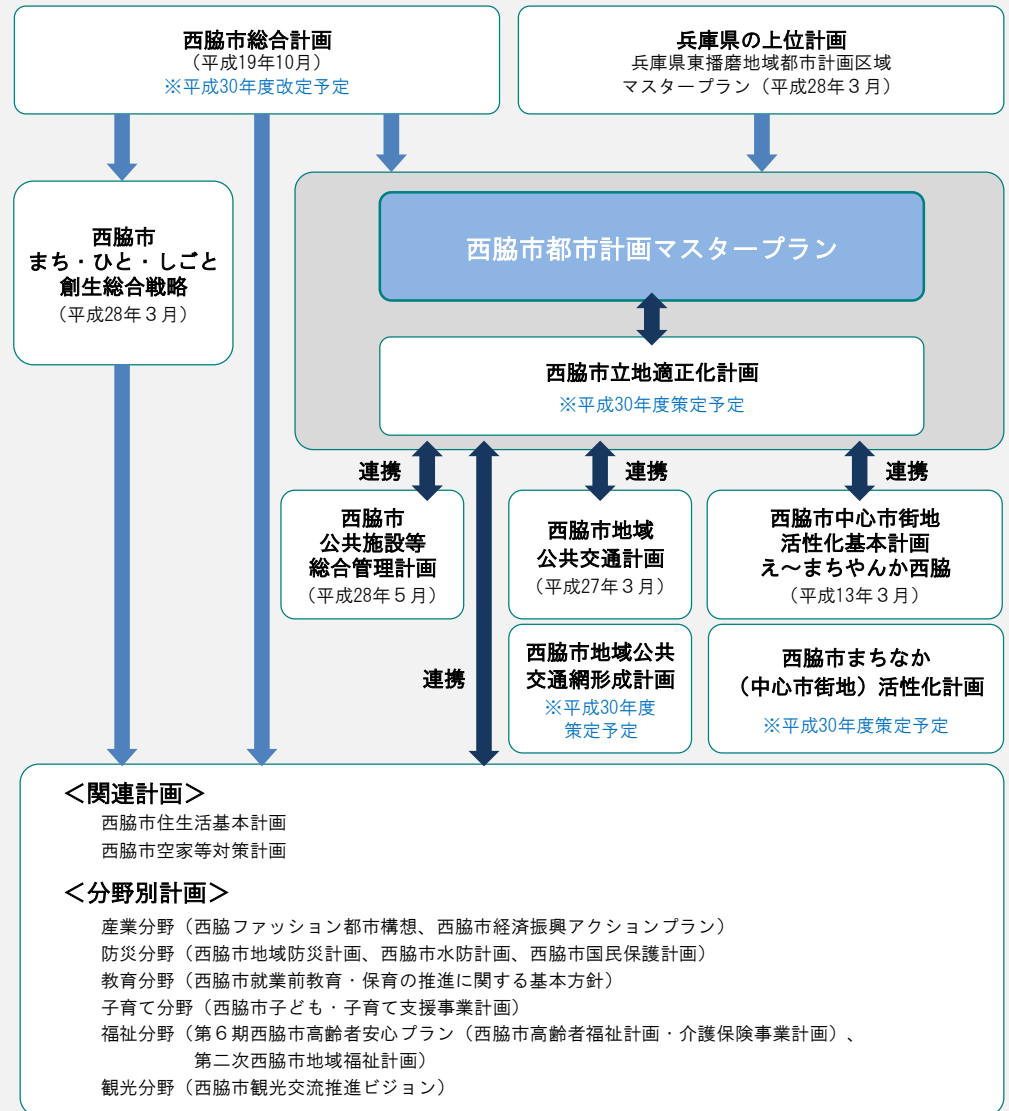
役 割

- ① 都市の将来像を明示します。
- ② 市が定める都市計画の方針となり、都市計画の総合性・一体性を確保します。
- ③ 都市計画に関する住民の理解や具体の都市計画の合意形成の根拠となります。
- ④ 個々の土地利用規制や各種事業の決定、変更の指針となります。

(3) 西脇市都市計画マスタープランの位置付け

位置付け

西脇市都市計画マスタープランは、地方自治法に基づく「西脇市総合計画・基本構想」と、兵庫県が都市計画法に基づいて定める「東播磨地域都市計画区域マスタープラン（東播都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）」に即して定めます。



(4) 西脇市都市計画マスタープランの構成

序章

全体構想



第1章 都市の概況と特性

第2章 市民意向

(アンケート調査の結果)

第3章 目指すべき都市像

第4章 実現に向けた都市づくりの
主要課題

第5章 都市の整備方針

地域別構想



第6章 地域づくりの方針

実現に向けての方策

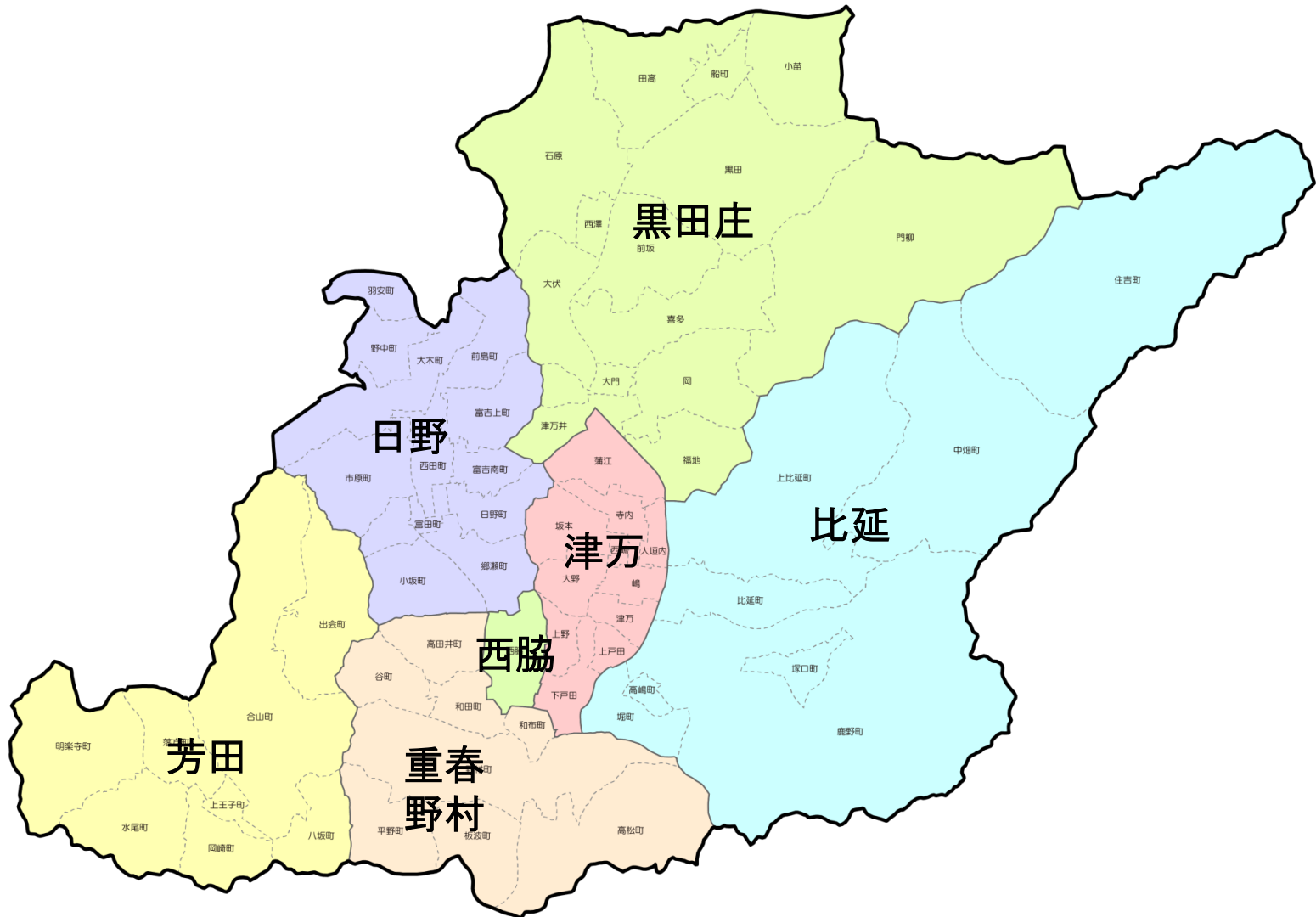


第7章 実現に向けての方策



(4) 西脇市都市計画マスタープランの構成

地区の区分 (7地区)



(5) 西脇市都市計画マスタープランの目標年次

(既存都市マス) 目標年次

- 総合計画（基本構想）の目標年次を踏まえ、平成30年度（2018年度）とする。
- 本市を取り巻く社会経済情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行う。



平成42年度（2030年度）を目標年次として見直しを行う。

見直しスケジュール



2 既存の都市マス策定時 以降の社会情勢の変化



(6) 産業と商業の状況

- ▲平成22年 清涼飲料等製造工場 操業開始
- 平成24年 にしわき上比延工場公園 分譲開始
- ▼平成24年 播州織染色加工会社 倒産
- ▼平成24年 温浴レジャー施設 閉鎖
- ▲平成25年 食品包装資材製造工場 操業開始
- ▲平成25年 建設産業機機械等製造会社の第二工場 操業開始
- ▼平成25年 大型商業施設 閉店
- ▼平成26年 半導体製造工場 閉鎖
- ▲平成26年 食用氷生産工場 操業開始
- 平成27年 にしわき上比延工場公園 完売
- ▲平成27年 流通加工等工場 操業開始
- ▲平成29年 特殊電線等製造工場 操業開始
- ▼平成30年 播州織染色工場 廃業

(7) 交通網と公共施設の状況

▲平成22年	新・重春橋 開通
▲平成23年	市立北はりま農産物直売所「北はりま旬采館」 オープン
▲平成24年	西脇市日本のへそ時計の丘公園オートキャンプ場 リニューアルオープン
▲平成24年	国道175号西脇バイパスの4車線化完了
▲平成24年	西脇南中学校新校舎・体育館 完成
▲平成25年	双葉小学校・幼稚園新校舎棟 完成
▲平成25年	西脇市立学校給食センター 運用開始
▲平成26年	日時計の丘公園交流施設 オープン
▲平成26年	上戸田浄水場 竣工
▲平成27年	にしわき経緯度地球科学館「テラ・ドーム」 リニューアルオープン
○平成27年	西脇市制10周年記念式典
▲平成27年	茜が丘複合施設「Mirai (みらいえ)」 オープン
▲平成27年	「西脇市太陽光発電所」 運用開始
▲平成27年	JR加古川線加古川－西脇市駅間でICカードの運用開始
▲平成28年	日本へそ公園「フォーブル」 オープン
▲平成29年	大木浄水場 竣工
○平成29年	幼稚園8園が閉園し、幼保連携型認定こども園8園が開園
▲平成29年	西脇消防署西脇北出張所・西脇市コミュニティ消防センター オープン

3 改定の方向性（案）



(8) 改定の方向性 (案)

●人口減少（4万人都市から3万人都市へ）

- ・西脇市の人口は、昭和35年をピークに減少傾向にあります。
- ・今後も減少傾向は続くと推計されており、現在の4万人都市から3万人都市へと人口規模が縮小する見通しです。

●少子高齢化＝人口構成の変化

- ・少子高齢化が進展し、人口構成も変化していく見通しです。

●D I Dの減少

- ・一定の都市機能を維持するために、一定の人口密度（D I D=40人/ha）を保つ必要がありますが、D I D面積が減少していくと想定されています。

西脇市都市計画マスタープランの改定に当たっては、
「社会情勢の変化」や「関連計画」、「その他関連事業」等を勘案し、
特に次の4点の土地利用の適正化に注視します。

- ① 工場の廃業等によって生じた跡地の利活用
- ② 公共施設再編に伴い生じた跡地の利活用
- ③ 新庁舎建設に伴う周辺の土地利用
- ④ 幹線道路周辺の土地利用

第1章 都市の概況と特性

立地適正化計画と同様のため、割愛します



第2章 市民意向 (アンケート調査の結果)



(1) アンケート調査の概要

実施目的

- 西脇市都市計画マスタープラン改定に当たり、市民の方々が普段暮らしている西脇市のまちをどのように考えておられるのか伺うとともに、住みよいまちづくりに向けた取組に対する参加の意向等を把握することを目的に市民意向調査を実施しました。

調査方法

調査対象	住民基本台帳より、18歳以上の方から無作為に1,000名を抽出 西脇市人口 41,260人（平成29年10月1日時点） 内18歳以上人口 35,008人
実配布数	1,000票
配布方法	郵送にて調査対象者へ送付し、郵送にて回収
調査期間	平成29年11月1日～11月30日
回収率	有効回数票：418票 回収率：41.8%

1. 回答者の属性

- 性別：「男」41.9%、「女」56.5%
- 年代：「60代以上」が全体の4割、「10代」・「20代」は全体の1割弱
- 職業：「会社員・公務員・派遣社員」が最多（3割以上）
- 同居人数：「2人」が最多（3割弱）
- 家族構成：「夫または妻」が最多（6割以上）
- 居住地区：「津万地区」7.9%、「日野地区」14.1%、「重春地区」17.0%、「野村地区」17.0%、「比延地区」8.4%、「芳田地区」3.8%、「西脇地区」9.6%、「黒田庄地区」19.6%
- 居住年数：「40年以上60年未満」が最多（29.7%）、「60年以上」（21.1%）
「30年以上40年未満」（13.2%） ↑ 「40年以上」が5割以上

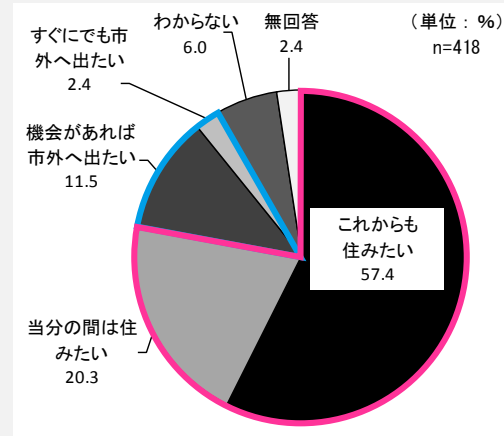
- * 回答者の属性としては、夫婦2人暮らしの高齢な方が多い結果となっています。
- * 前回の都市計画マスタープランと比べると、回答者の属性は概ね同様ですが、同居人数「2人」と回答した人の割合が、前回の22.1%から28.9%へと6.8ポイント増えています。

2. 居留意向

“定住意向”：「これからも住みたい」＋「当分の間は住みたい」

“転居意向”：「機会があれば市外へ出たい」＋「すぐにでも市外へ出たい」

- 定住意向が77.7%、転居意向が13.9%。
⇒ 8割弱の方がこれからも西脇市に住みたいと回答。
- 年代別では、「10・60・70代」以上で居留意向が80%以上。
一方、「20・40代」では60%程度となっている。
- 地区別では、「重春・野村・芳田・黒田庄地区」で80%を超えているが、「比延地区」では70%を下回っている。



* 居留意向別「住みたい理由」・「住みたくない理由」（複数回答可）

“定住意向”／「家や土地があるから」（85.8%）

「地域や人に愛着があるから」（32.0%）

“転居意向”／「不便だから」

* “定住意向”は前回（77.5%）とほぼ同水準

“転居意向”は前回（11.3%）から2.6ポイント増加

(2) アンケート結果

西脇市の現状について



3. 地域に関する満足度（質問項目）

*18項目について「非常に満足」「満足」「不満」「非常に不満」「分からない」の5区分で回答

1. まちなみ・周辺環境	10. 公共交通（鉄道、バス）の利用しやすさ
2. 通勤・通学の利便性	11. 道路の走りやすさ
3. 日常の買物の利便性	12. 歩道の歩きやすさ
4. スポーツ・レクリエーション施設の充実度	13. 火災、地震、水害などに対する安全性
5. 医療・福祉関連施設の利用しやすさ	14. 犯罪に対する安全性
6. 保育園や幼稚園などの利用しやすさ	15. 子育て環境
7. 教育施設（小・中学校）の通いやすさ	16. 雇用の場の充実度
8. 公共施設（市民会館など）の利用しやすさ	17. 自然環境の豊かさ
9. 公民館など地区の集会施設の利用しやすさ	18. 地域とのつながり

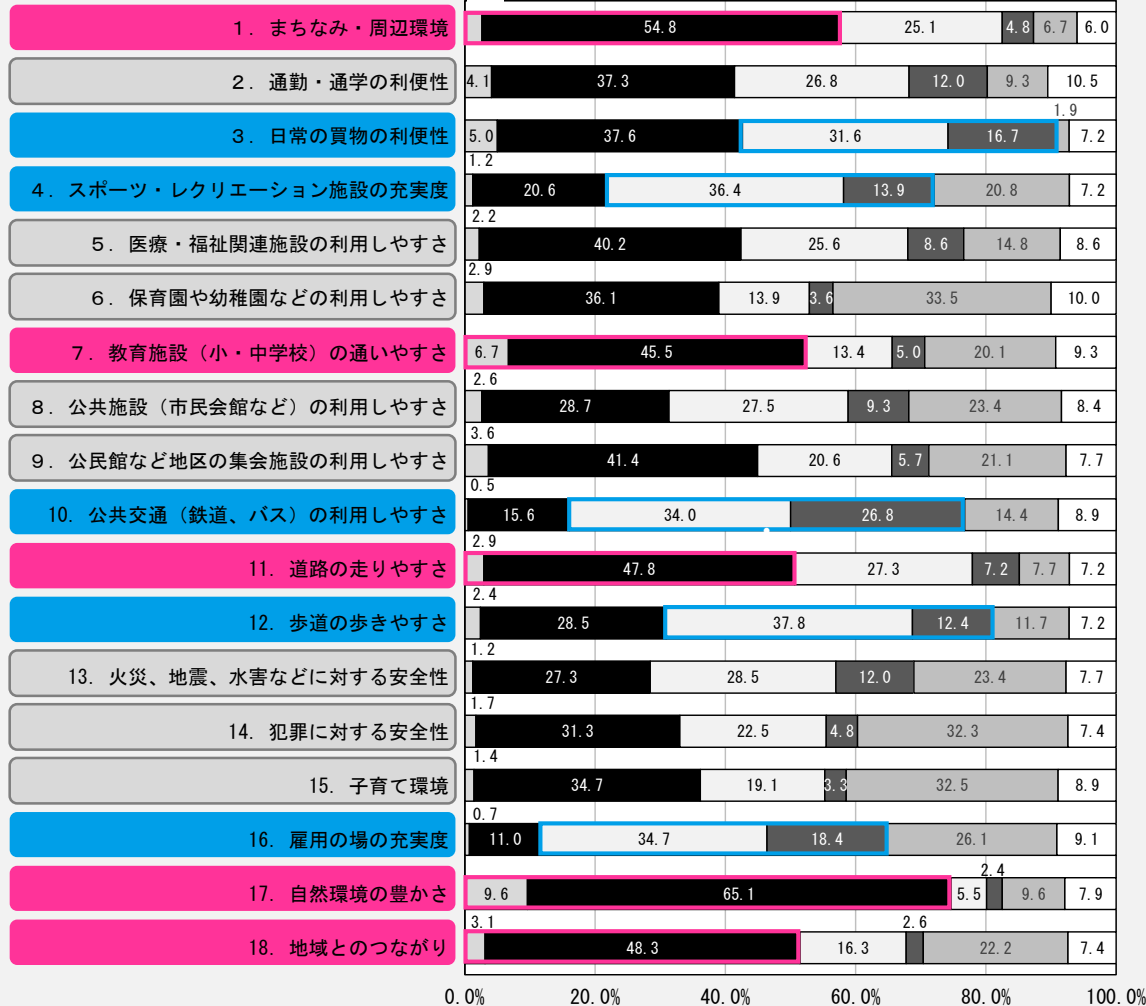
(2) アンケート結果

西脇市の現状について



3. 地域に関する満足度（回答結果）

n=418



- ▲ 0.8
- ▼ 6.8
- ▼ 19.2
- ▼ 3.2
- ▲ 4.6
- ▼ 11.1
- ▼ 9.2
- ▼ 2.6
- ▼ 9.0
- ▼ 3.5
- ▲ 3.6
- ▼ 1.8
- ▲ 1.1
- ▲ 9.9
- ▼ 3.7
- ▼ 0.1
- ▲ 3.0
- ▼ 1.4

← 前回の満足度と
今回の満足度の
差

- 非常に満足
- 満足
- 不満
- 非常に不満
- 分からない
- 無回答

(2) アンケート結果

西脇市の現状について



3. 地域に関する満足度（回答結果）

* 満足度が高い項目／不満度の高い項目 の 前回調査と今回調査の比較

		今回	前回	評価	
満足度の高い項目 (満足度)	5割以上が満足と回答		満足度	満足度	
	17. 自然環境の豊かさ	74.7%	71.7%	▲	
	1. まちなみ・周辺環境	57.4%	56.6%	▲	
	7. 教育施設（小・中学校）の通いやすさ	52.2%	61.4%	▼	
	18. 地域とのつながり	51.4%	52.8%	▼	
	11. 道路の走りやすさ	50.7%	47.1%	▲	
不満度の高い項目 (不満度)			不満度	不満度	
	10. 公共交通（鉄道、バス）の利用しやすさ	60.8%	67.2%	▲	
	16. 雇用の場の充実度	53.1%	59.9%	▲	
	4. スポーツ・レクリエーション施設の充実度	50.3%	47.8%	▼	
	12. 歩道の歩きやすさ	50.2%	53.1%	▲	
	3. 日常の買物の利便性	48.3%	33.9%	▼	
5割以上が不満と回答					

“満足”：「非常に満足」＋「満足」

“不満”：「不満」＋「非常に不満」

3. 地域に関する満足度（回答結果）

- * 「道路の走りやすさ」に対する満足度が高い
- * 「公共交通の利用しやすさ」や「歩道の歩きやすさ」に対しての不満度が高い
 - ➡高齢化の進展等に伴って交通弱者が増加することから、公共交通の充実や歩行空間の確保が課題

- * 前回調査においても、「自然環境の豊かさ」に対する満足度が最も高い
 - ➡清流と田園環境に囲まれた西脇市への高い評価
- * 前回調査から、「公共交通の利用しやすさ」の不満度が6.4ポイント減少
 - ➡依然として満足度が低く、取り組みは必要

- * 「日常の買い物の利便性」
前回調査では満足度の高い項目 ➡ 今回調査では満足度の低い項目へ
(満足度：61.8%→42.6%、不満度：33.9%→48.3%)
 - ➡市民の日常生活に必要なサービスを提供する施設の維持が重要

➡ KEYWORD①：公共交通／歩行空間の充実／日常の買い物の利便性

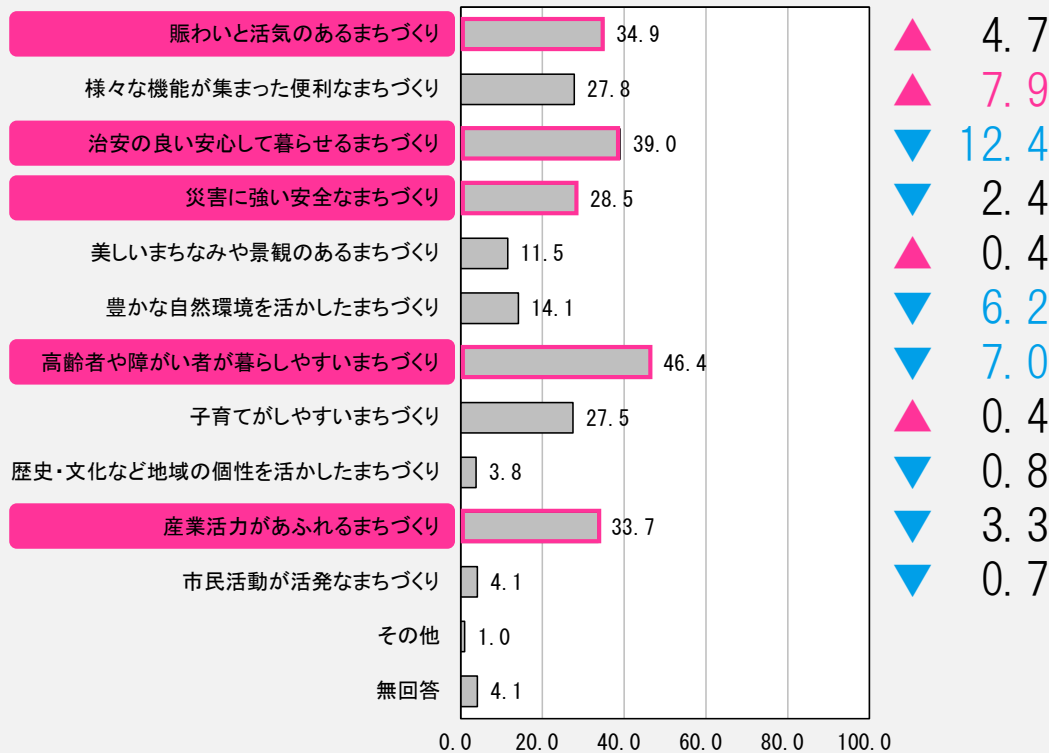
(2) アンケート結果

西脇市の将来イメージについて



4-1. 西脇市の将来イメージ

n=418



← 前回との差

■ 前回調査との比較

* 上位5項目は、前回と同様

■ 年代別の傾向

* 「10代」～「40代」は、
子育て環境、活力、便利さ、
安心安全のまちづくりが上位

* 「50代」以上は、
高齢者や障がい者が暮らしやすい
まちづくりが上位

■ 居住地区別の傾向

* 日野・野村・比延・黒田庄では、
高齢者や障がい者が暮らしやすい
まちづくりが上位

* 西脇地区では、
災害に強いまちづくりが上位

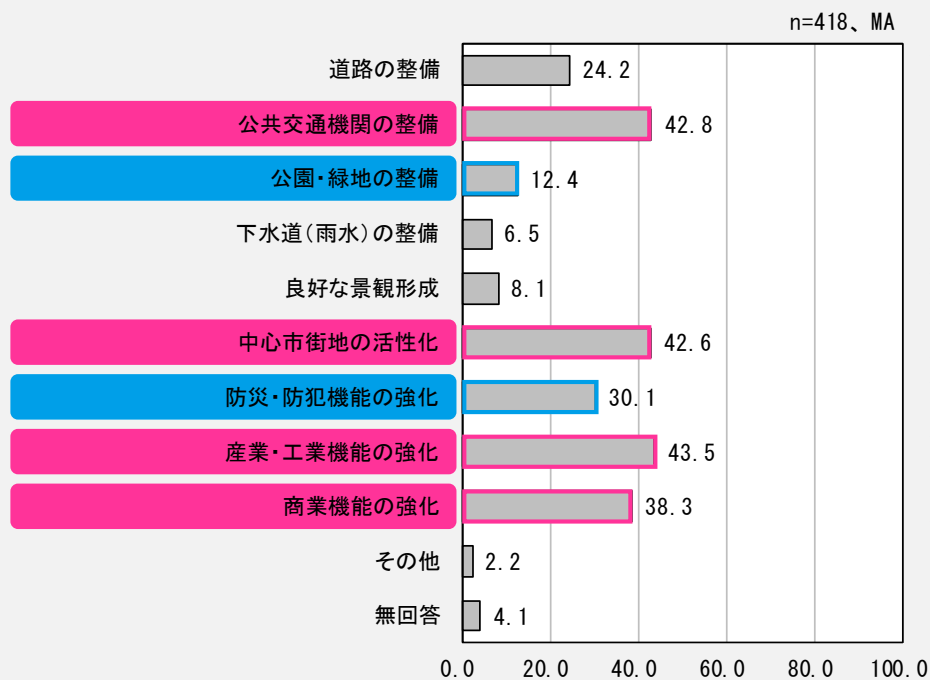
➡ KEYWORD②：賑わい／安心・安全／産業

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方



4-2. 今後のまちづくりにおいて力を入れるべき分野



▼ 0.9 ◀ 前回との差

▲ 1.4

▼ 8.0

▲ 0.7

▼ 3.4

▲ 9.8

▼ 21.6

▼ 4.3

▲ 10.9

■ 前回調査との比較

* 前回と比べて、UPした項目

「中心市街地の活性化」

「商業機能の強化」

* 前回と比べて、DOWNした項目

「公園・緑地の整備」

「防災・防犯機能の強化」

■ 年代別の傾向

* 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

* 全体と同様の傾向

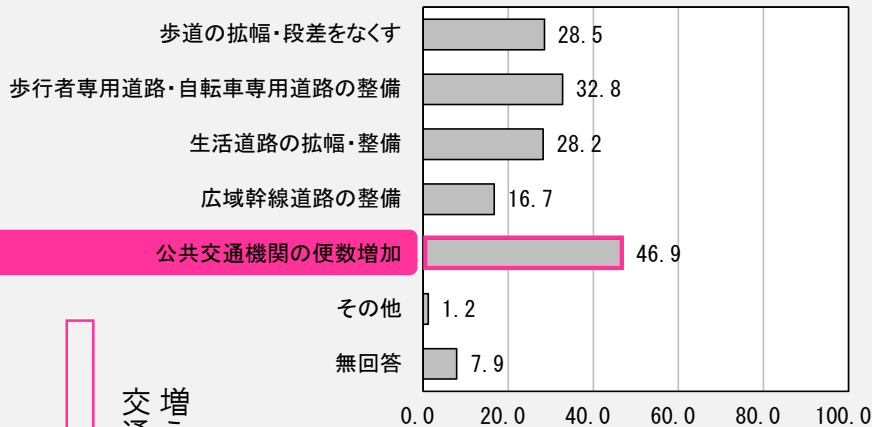
➡ KEYWORD③ : 賑わい / 公共交通 / 産業

(2) アンケート結果

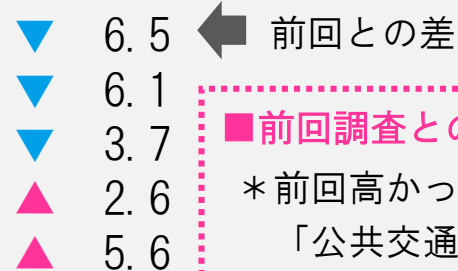
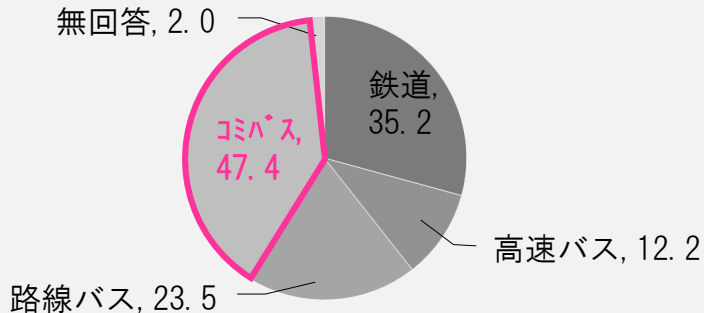
より良いまちづくりに向けた考え方

4-3. 分野ごとに重視すべきこと／①道路整備・交通整備

n=418



交通機関
増えてほしい



■前回調査との比較

- * 前回高かった上3項目が減り、「公共交通機関の便数増加」を重視すべきとの意見が増。
- * 特に「コミバス」の便数増加を望む声が多い

■年代別の傾向

- * 全体と同様の傾向

■居住地区別の傾向

- * 津万・日野・重春・野村・西脇・黒田庄地区では、「公共交通機関の便数増加」
- * 比延・芳田地区では、「歩行者専用道路・自転車専用道路の整備」

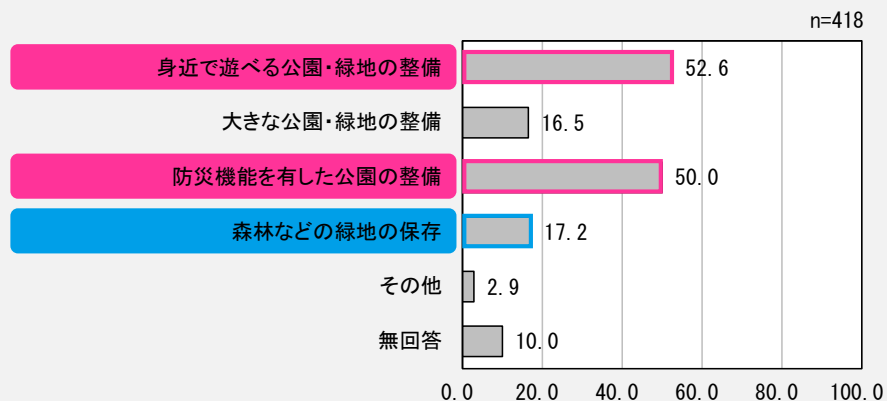
➡ KEYWORD④：公共交通機関の便数増加

(注) 前は、「しばざくら号の利用しやすさ」の項目があった

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-3. 分野ごとに重視すべきこと／②公園・緑地整備



▼ 12.4

▼ 0.5

▼ 6.2

▼ 21.0

← 前回との差

■ 前回調査との比較

* 高い2項目は前回同様。

「身近で遊べる公園・緑地の整備」

「防災機能を有した公園の整備」

* 「森林などの緑地の保存」は大きく減少

■ 年代別の傾向

* 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

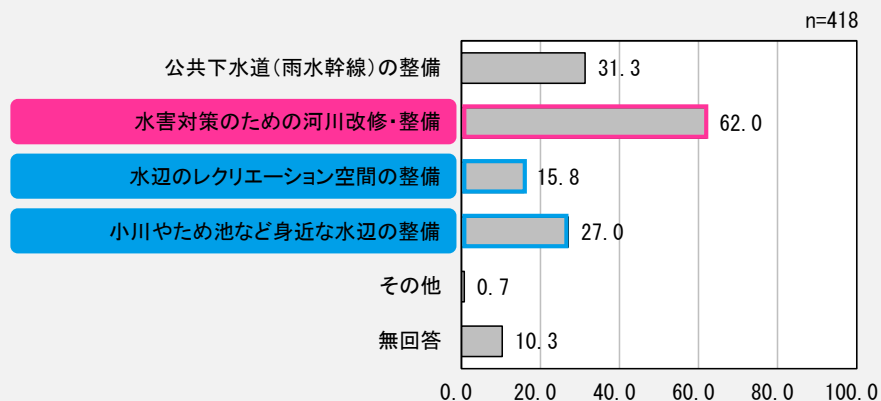
* 全体と同様の傾向

➡ KEYWORD⑤：身近な公園／防災機能を持った公園

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-3. 分野ごとに重視すべきこと／③下水道（雨水）・河川整備



▲ 0.7 ← 前回との差
▼ 8.7
▼ 15.1
▼ 15.7

■ 前回調査との比較

- * 「水辺のレクリエーション空間」「小川やため池など身近な水辺」の2項目が大きく減少
- * 「水害対策のための河川改修・整備」は8.7ポイント減少したが前回同様、最も重視すべき項目。

■ 年代別の傾向

- * 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

- * 全体と同様の傾向

➡ KEYWORD⑥：水害対策への高い関心

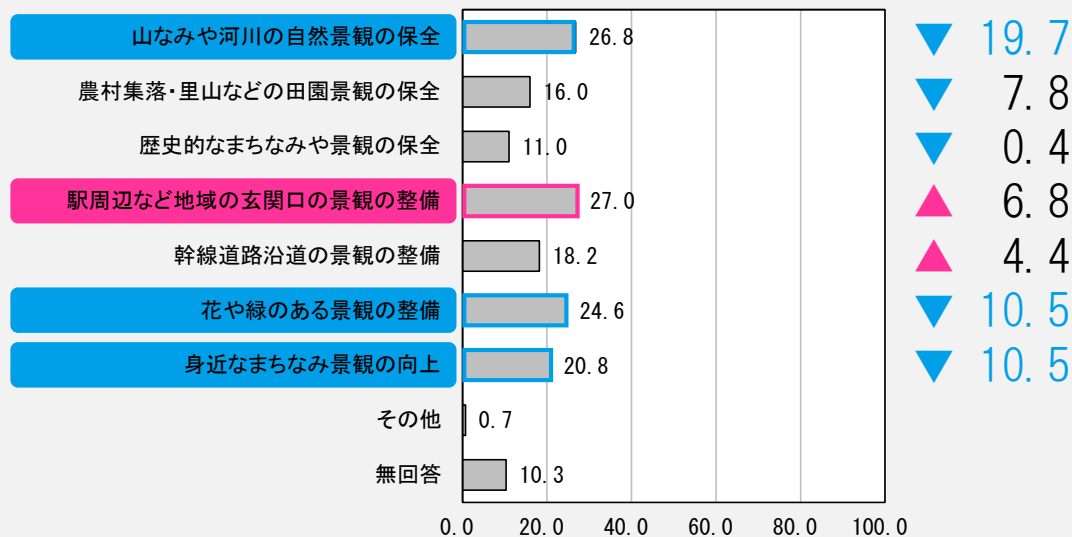
(注) 今回は、公共下水道に「(雨水幹線)」を追加

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-3. 分野ごとに重視すべきこと／④景観形成

n=418



← 前回との差

■ 前回調査との比較

- * 大きくUPした項目
「地域の玄関口の景観の整備」
- * 大きくDOWNした項目
「山なみや河川の自然景観の保全」
(19.7ポイント減)

■ 年代別の傾向

- * 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

- * 全体と同様の傾向
- * 野村地区では、玄関口の景観整備の項目が大

➡ KEYWORD⑦： 玄関口の景観整備／自然環境の保全

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-4. これからの商業地（主に日常生活で買い物をするところ）について

項目	割合	順位
1. 駅周辺やアピカなど利便性の高い商業ゾーンを充実する	22.7%	2
2. 幹線道路（しばざくら通りなど）沿いに商業施設を充実する	20.3%	3
3. 高齢者等も歩いて利用できる日用品店（コンビニエンスストアなど）を充実させる	32.8%	1
4. 現状のままでよい	9.8%	4
5. わからない	5.5%	5
6. その他	4.8%	6

■調査の結果（特徴）

* 「高齢者等も歩いて利用できる日用品店（コンビニエンスストアなど）を充実させる」が最多

■年代別の傾向

* 全体と同様の傾向（「10代」：「駅周辺やアピカなど利便性の高い商業ゾーンを充実する」

「30代」：「幹線道路（しばざくら通りなど）沿いに商業施設を充実する」）

■居住地区別の傾向

* 津万・芳田・黒田庄地区 → 「高齢者等も歩いて利用できる日用品店を充実させる」（50%以上）

重春・野村地区 → 「幹線道路（しばざくら通りなど）沿いに商業施設を充実する」

➡ **KEYWORD⑧**：身近な商業施設の充実

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-5. 企業や工場の立地（誘導）で配慮すべきことについて

項目	今回	前回	前回との差
1. 重要な雇用の場であり、どこでも構わないからー	14.6%	9.5%	▲ 5.1%
2. 市街地内の工場跡地や商業施設跡地などにー	23.9%	17.6%	▲ 6.3%
3. 居住環境に悪影響を及ぼさないようにー	38.5%	38.3%	▲ 0.2%
4. 自然環境や農地に悪影響を及ぼさないようにー	15.8%	27.9%	▼ 12.1%
5. 立地（誘導）する必要はない	1.9%	2.0%	▼ 0.1%
6. その他	1.4%	0.9%	▲ 0.5%

* 「ー」は「立地（誘致）するべきである」が入る

■ 前回調査との比較

* 上位は前回と同様「居住環境に悪影響を及ぼさないように立地（誘致）するべきである」

「市街地内の工場跡地や商業施設跡地などに立地（誘致）するべきである」

* 「自然環境や農地に悪影響を及ぼさないように立地（誘致）するべきである」は12.1ポイント減

■ 年代別の傾向

* 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

* 全体と同様の傾向

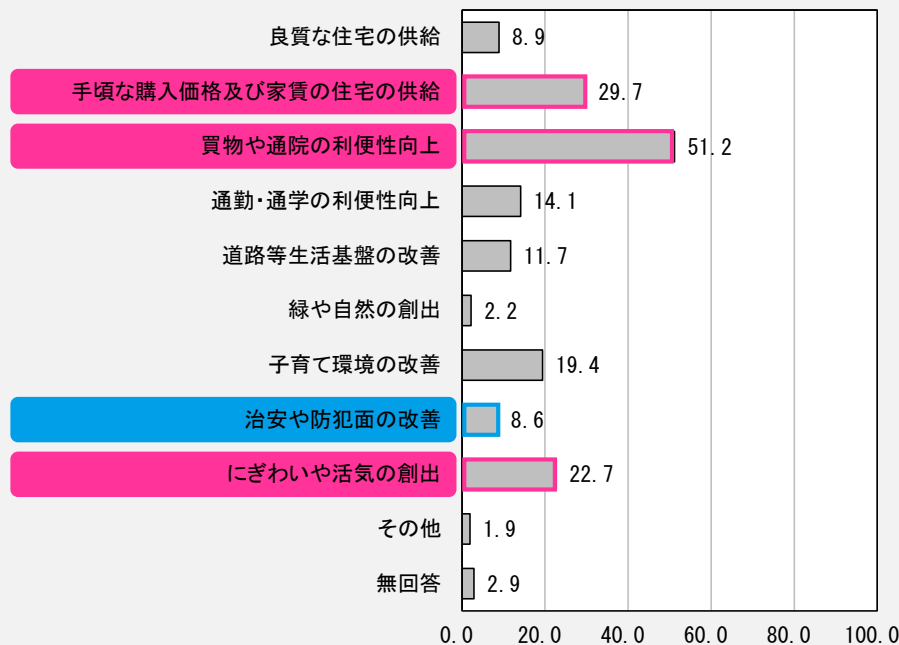
➡ KEYWORD⑨：雇用の場の確保／一定の配慮

(2) アンケート結果

より良いまちづくりに向けた考え方

4-6. まちなか居住の推進について

n=418



- ▼ 1.2 ← 前回との差
- ▲ 0.1
- ▲ 4.9
- ▼ 4.0
- ▼ 6.3
- ▼ 3.3
- ▲ 2.7
- ▼ 8.5
- ▲ 6.1

■ 調査の結果（特徴）

- * 重要と思う意見が多い項目
「買物や通院の利便性向上」
「手頃な購入価格及び家賃の住宅の供給」
- * 前回調査からDOWNした項目
「治安や防犯面の改善」8.5P減

■ 年代別の傾向

- * 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

- * 全体と同様の傾向

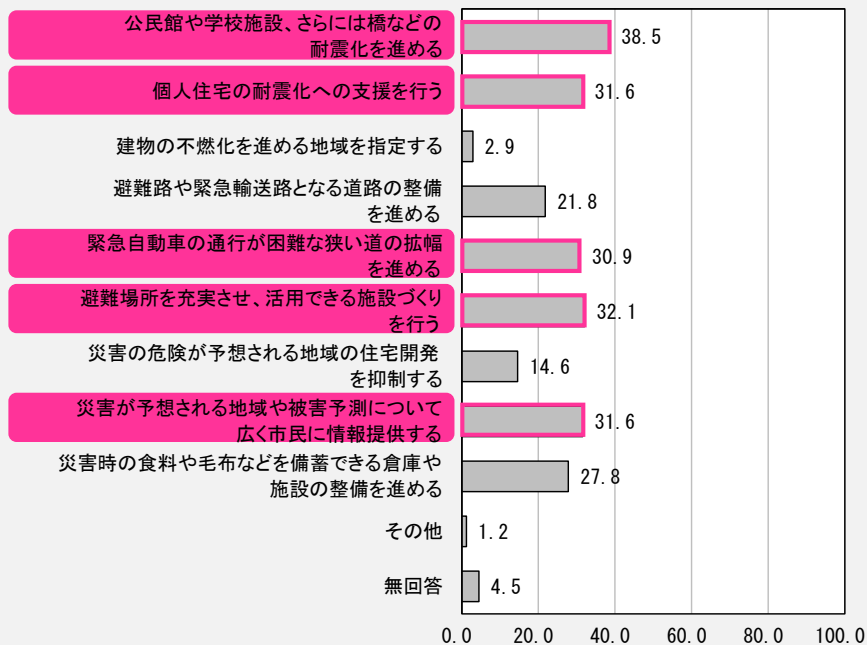
➡ KEYWORD⑩： 利便性向上／手頃な住宅

(2) アンケート結果

災害に強いまちづくりについて

5. 災害に対するまちづくりについて

n=418



■ 調査の結果（特徴）

* 上位5項目は3割超

■ 年代別の傾向

* 全体と同様の傾向

■ 居住地区別の傾向

* 全体と同様の傾向

➡ KEYWORD⑪：ソフト・ハード両面からの防災体制

(3) アンケート結果のまとめ

キーワード

①	公共交通／歩行空間の充実／日常の買い物の利便性
②	賑わい／安心・安全／産業
③	賑わい／公共交通／産業
④	公共交通機関の便数増加
⑤	身近な公園／防災機能を持った公園
⑥	水害対策への高い関心
⑦	玄関口の景観整備／自然環境の保全
⑧	身近な商業施設の充実
⑨	雇用の場の確保／一定の配慮
⑩	利便性向上／手頃な住宅
⑪	ソフト・ハード両面からの防災体制

アンケート結果のまとめ

①自然環境に対する高い満足度

➡前回調査に引き続き、満足度が高く、今後も保全が必要。

②防災に対する高い意識

➡前は不満度が高く、整備要望が強かったが、激特事業の終了等もあり、不満度が減少。
➡安心・安全な市民生活の維持・確保が必要。

③商業・産業に対する要望+まちの活力

➡商業は、満足度が高い項目から低い項目へ。
➡産業は、引き続き重要度の高い項目。
➡商業・産業の活性化と賑わいの創出が必要。

④公共交通に対する要望

➡前回と比べると、不満度が減少したものの、依然として重要度の高い項目。
➡高齢化等の進展に伴い、ますます重要。

～ 地域ハグクム西脇市 ～
平成30年度 第1回都市計画審議会
(西脇市都市計画マスタープラン)

ご静聴ありがとうございました

